

1 生徒自らが作成した「WEBページ」を活用した授業展開例

教科(科目)	地歴(地理 A)	単元名	第 2 章 身近な地域と世界
本時の主題	「土岐プラズマ・リサーチパーク」のグループ発表<プレゼンテーション> (5 時間目 / 6 時間)		
本時の目標	<p>(1) 地域調査を実際に行うことにより、地理を学ぶことに興味・関心を抱かせ、合わせて野外調査や文献調査を通して、地理学習の方法を多面的に把握し理解させる。【関心・意欲・態度】</p> <p>(2) 「土岐プラズマ・リサーチパーク」およびその周辺地域がどのように変容し、今後どのような変化が予想されるか、グループ発表や地域調査で得られた資料をもとに考察させる。【思考・判断】</p> <p>(3) 地域調査で得られた結果をまとめて、報告する技術を習得させる。【技能・表現】</p> <p>(4) 「東濃研究学園都市」の中で中心的な役割を担うのが、「土岐プラズマリサーチパーク」であることを知り、産業誘致によって土岐口周辺が大きく変容しつつあることを理解する。【知識・理解】</p>		
指導の内容・ねらい	学 習 活 動		指導上の留意点・観点別評価
<p>多極分散型国土形成促進法に基づいて土岐津町周辺が、大きく変容してきたことを知る。</p> <p>「東濃研究学園都市」の中で中心的役割を担うのは、「土岐プラズマ・リサーチパーク」であることを知る。 10分(経過時間)</p> <p>「WEBページ」を作成して、調査結果を発表することができる。</p> <p>「土岐プラズマ・リサーチパーク」について様々な視点から理解することができる。</p>	<p>土岐津町周辺の変容確認 土岐津町周辺の新旧の写真を比較し、気がついたことを発表してみよう。</p> <p>教 平成 9 年 1 月に撮影した土岐津町周辺の航空写真と現在航空写真を配布し、本校の位置を示す。 ・雑木林地帯 産業誘致場所・道路・住宅地・公園</p> <p>「東濃研究学園都市」の全体構想確認 「東濃研究学園都市」の全体構想をインターネットを使って調べてみよう。 ・「東濃研究学園都市」の中で中心的役割の担い手は、「土岐プラズマ・リサーチパーク」であることの確認</p> <p>プレゼンテーション グループで設定した課題を追究して作成した「WEBページ」を基に発表しよう。</p> <p>プレゼンテーションの視聴 グループ発表でわかったこと、気づいたことをメモをとりながら、しっかり聞こう。</p> <p>「土岐プラズマ・リサーチパーク」への交通アクセスと将来像 < 1 グループ > ・「土岐プラズマ・リサーチパーク」への交通アクセス ・「土岐プラズマ・リサーチパーク」の将来像</p> <p>「土岐プラズマ・リサーチパーク」事業の目的と土地利用 「土岐プラズマ・リサーチパーク」に立地する場合の助成制度 < 2 グループ > ・「土岐プラズマ・リサーチパーク」事業の目的 ・「土岐プラズマ・リサーチパーク」の土地利用 ・「土岐プラズマ・リサーチパーク」に立地する場合の助成制度</p> <p>「土岐プラズマ・リサーチパーク」における人と自然と共生したまちづくり < 3 グループ > ・貴重な植物の移植 ・雨水の処理、チップの利用</p>		<p>学校周辺の新旧の写真を見て、土岐津町周辺の変化に関心をもつことができたか。新旧の写真資料を比較することにより、地域の変化をとらえ、考察することができたか。 【関】</p> <p>< 評価方法 > 発問・挙手</p> <p>地域の変容をもたらす「東濃研究学園都市」の役割について知り、「土岐プラズマ・リサーチパーク」に関心をもつ。</p> <p>自分達のテーマに基づいて、土岐口財産区や公団の人々にしっかりと聞き取りをすることができ、気づいたことやわかったことを適切に表現することができたか。調査結果を工夫して発表することができたか。【技】</p> <p>< 評価方法 > 自己評価表記入</p> <p>発表を聞いたりしてわかったことなどをメモしながらしっかりと聞くことができたか。</p>

注1
注2
注3
注4
注5
注6
注7
注8
注9

指導のねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価
<p>グループ発表を比較・評価することで、調査活動の進め方、「土岐プラズマ・リサーチパーク」の概要と変化、調査結果のプレゼン方法を振り返る。</p> <p>45分</p> <p>学習した内容を確認し理解を深める。</p> <p>本時のまとめ</p> <p>次時の予告</p> <p>50分</p>	<p>「土岐プラズマ・リサーチパーク」の施設計画 4グループ ・誘致施設 ・住宅計画 ・センター施設計画 ・道路計画 ・教育施設 ・公園緑地計画</p> <p>「土岐プラズマ・リサーチパーク」を整備するにあたっての財産区と公団とのいきさつ <5グループ> ・「土岐プラズマ・リサーチパーク」ができるまで ・「土岐プラズマ・リサーチパーク」のQ&A</p> <p>「土岐プラズマ・リサーチパーク」の現在の状況 ・作業の様子 ・施設内の道路 <6グループ> ・シデコブシ ・調整池 ・公園&商業施設</p> <p>自己評価・相互評価 自己評価表と相互評価表の各項目を5段階で評価し、結果をコンピュータに入力しよう。</p> <p>自己評価項目 グループ発表を聞いて ・グループ発表の内容に関心をもって聞けたか。 ・発表者の意図を理解することができたか。 ・「土岐プラズマ・リサーチパーク」の概要について、理解することができたか。 グループ発表に参加して ・グループ発表に意欲的に参加できたか。 ・グループ全員で協力できるように努力したか。 ・WEBページの作成において、創意工夫して作成することができたか。</p> <p>相互評価項目 調査と資料活用 ・十分な調査がされているか。 ・適切に資料処理がされているか。 表現 ・文章や表現・図表などの資料が適切・簡潔でわかりやすいか。 ・作品がわかりやすく表現がすぐれているか。 研究の進め方 ・テーマとの関係に矛盾がなく研究を進めているか。 ・研究が独創的であるか。 ・発表態度はどうか。</p> <p>学習内容の確認・理解 グループ発表を聞いての感想をまとめ、発表しよう。</p> <p>教 グループ発表の相互評価の結果を発表する。</p> <p>まとめ 本時の学習の感想をまとめよう。</p> <p>教 「土岐プラズマ・リサーチパーク」について今回の調査結果・発表内容を基に各自レポートを作成する。</p>	<p>自分達のグループと他グループとのつながりを理解しながら、発表を聞くことができたか。 「土岐プラズマ・リサーチパーク」によって、土岐市の生活の変化について考えることができたか。</p> <p>評価活動に意欲的に取り組んでいるか。 「土岐プラズマ・リサーチパーク」の概要や土岐口周辺の変化を正しく認識することができたか。【知】</p> <p><評価方法> 自己評価表記入・ノート記入</p> <p>効果的なプレゼン方法を知り自分のものにすることができたか。【知】</p> <p><評価方法> 自己評価表記入（全グループ発表終了時、自分のグループ発表終了時） ノート記入</p> <p>本時の学習内容を振り返り、地域社会の一員として、今後の展望を考察することができたか。【思】</p> <p><評価方法> ノート記入 授業後、ノート提出</p>

注11
注12

注13
注14
注15

指導上の留意点を注として別紙に示す。

地理 A

< 指導上の留意点 >

- 注 1 身近な地域への関心を発展させて、日本・世界の学習への意欲を喚起させる。
- 注 2 「東濃研究学園都市構想」のインターネットのURLは、<http://www.tono-fsrc.gifu.gifu.jp>であることをあらかじめ指示する。
- 注 3 近年急速に進展する国際化社会の実態を、自分たちの身近な地域の姿を通して理解させ、今後の問題点を考察するとともに国際理解のきっかけとなるように配慮する。
- 注 4 商業科の授業でのコンピュータの使用状況をあらかじめ調べ、生徒のコンピュータに関する知識の程度を理解した上で、無駄のないように指導する。
- 注 5 情報通信ネットワークを活用した学習実践を行うにあたり、パソコンやインターネットを使う上でのモラルやエチケットを再確認する。
- 注 6 地域調査は、地理の学習であると同時に、他人（目上の人）とのコミュニケーションの学習の場であることも、指導する。また、地域調査はその地域の姿を肌で体験し、地域の人々との触れ合う場を持つこともできる。このような地域の人々との触れ合いを大切にさせ、与えられた課題をこなすだけでなく、自ら学ぶ喜びを経験できるように配慮する。
- 注 7 WEBページの作成は生徒に主体的に検討させ、グループの特色が出せるような発表の仕方を工夫させる。
- 注 8 グループ発表後、質疑応答など意見のやりとりが活発になるように働きかける。
- 注 9 グループ発表毎に生徒の意見を尊重しながら、補足説明をする。
- 注10 「土岐津町誌」第11章土岐口財産区・第14章伸びゆく土岐津をよく参考にして、本校と土岐口財産区との関係についても説明させる。
- 注11 入力システムについては、データベースソフトを利用した。
- 注12 評価の視点<方向性・深化>を明確にしておく。また、机間指導によりコンピュータ入力がスムーズに行えるよう援助する。
- 注13 自己評価と相互評価を分析し、お互いに認め合う支持的風土づくりをし生徒の追及意欲を高めるようにして、今後の学習に生かす。
- 注14 発表の結果だけを評価せず、調査活動の過程での生徒の変容や工夫・努力を認め、生徒一人一人を生かすことのできるような肯定的評価に心がける。
- 注15 生徒自身による自己評価・相互評価をもとにして、一人一人の評価を行い、結果を今後の指導に生かす手だてを考察し、実践していく。（指導と評価の一体化）

< 単元の指導計画(全6時間) >

- ・「土岐プラズマ・リサーチパーク」の地域調査 3時間
- ・WEBページの作成 1時間
- ・プレゼンテーション 1時間(本時)
- ・レポート作成 1時間

< 生徒作成のホームページ >



< 本校周辺と土岐プラズマ・リサーチパーク >



データベースソフト(Access2000)で作成した入力システム

